



子宮体がん治療中、
体外受精2回、
顕微授精9回を経て出産

赤星ポテ子さん (33歳)

イラストレーター。「赤ちゃんが欲しい」(主婦の友社)にてエッセイコミック連載(現在終了)。
<http://akahoshi-poteco.com/>

Interview

ふたり目の不妊治療に
息子を連れていくか
悩ましい。ひとり目とは
違う悩みがあります。



治療Data

治療を始めた年齢…29歳(婚約期間中)
受けた検査…ホルモン検査、子宮卵巣卵管MRI、子宮卵管造影検査、AMH値、染色体検査
不妊の原因…子宮体がん、卵巣機能低下、染色体異常(ターナー)
受けた治療…タイミング法、採卵11回、体外受精、顕微授精
その他実践したこと…葉酸・DHEA等のサプリメント、健康食品の摂取、加圧トレーニング
治療期間…約2年
治療後…32歳で出産。ふたり目の不妊治療をゆっくりスタート
治療にかかった費用…約500万円

卵巣機能年齢が高いことがわかり
次の妊娠を急ぐ気持ちがあります

27歳のとき、初期の子宮体がんが見つかり、「すぐに子宮を摘出するか妊娠するか、どちらかだ」と言われました。調べたところ、卵巣機能年齢が45歳を上回り、染色体に異常があることもわかりました。

そこから2年近く、主に卵巣低刺激法で採卵し、顕微授精を繰り返しました。お金はかかりましたよ。頻繁に治療に通うため、会社は辞めざるを得ませんでした。ブログや雑誌に不妊治療のことを書き、励まし合う友達もできたのです。次々に先を越され……。妊娠

がわかったときは、喜びより「ようやくやく1段階前進」とホッとしました。みんな口には出さないけれど、いろいろな事情があるんですね。治療のおかげで、言葉には出さない人の気持ちを、少しはくみとることができるようになったかなと思っています。

息子に親の都合を
押し付けているのかな？

今年に入り、ママ友たちの妊婦姿を見て、ふたり目の妊娠を考え

始めました。卵巣機能年齢が高いとわかっていたので、急がなくてはならず、排卵を再開させるために授乳をやめました。本当は2歳ぐらいまで母乳をあげたいと思っているのに、できるかどうかかわからない妊娠を優先させ、断乳……。息子に親の都合を押し付けているのかなと罪悪感を覚えることもあります。

ふたり目の不妊治療は、ひとり目とは違った悩みがあります。ひとり目のときは、子どもを一生授かることができなくてもいい、絶望感がありました。でも、ふたり目は「この子を授かった奇跡を思えば、ぜいたくだ」と自分でも思う一方で、やっぱり欲しいという焦りもあります。そんな悩みを、共有できる人を見つけにくいところがあります。

また、不妊治療のクリニックに子連れで行くのは、ひとり目の治療時を思い返すと控えるべきとわかってはいるのですが、子どもの預け先を見つけづらいという悩みもあります。社会的な受け皿が必要だと強く思います。